

教科書をとじて・・・

授業を参観させて頂くとき、かつてからちょっと気になることがある。
先生が、「今日は教科書を閉じておいて下さい。」と生徒に告げて授業をはじめる。
理由の一つは、教科書に答えが書いてあることを考えさせるためのようだ。

話し合い活動やグループ活動などを生徒にさせるとき、答えは、教科書に書かれているために、生徒の思考や活動が成立しないことを、先生が避けたいと考えるためであろう。

現実の授業では、予習している生徒、塾等で既に学習している生徒がいる。情報が少なく、学びに意欲があった時代ならそれほど心配はないが、これだけ情報が氾濫している時代である。先生が生徒に対し、教科書を閉じるよう指示して活動させる授業では、生徒は、授業の進め方に対し「わざとらしさ観」や「不必要観」を持つ可能性がある。

ではどうするか。
確認しておくが、生徒に実態や指導目標、学習内容にも関わるので様々な対応が可能である。そこが難しくおもしろいのである。

- ・教科書を開いてすぐに調べるのできる内容であれば、堂々と開いて教える。
- ・教科書に書いてなくかつ話し合う意味を持つ内容を提示する

最近の例

- ・課題 中学2年「動物を分類しよう」
- ・内容 動物を、せきつい動物・無せきつい動物に、せきつい動物を5つの類に分けることができることを学ぶ
- ・活動 (教科書を閉じたかたちで)
せきつい動物の写真を何枚か掲示それらを5つに分けなさいと話し合いさせる
または、5つに分けた後それらはどのような特徴があるか考えさせる
- ・改善 例① 学習の初めの場面で、いろいろな動物を提示し、科学的な自由な発想で分類させる。せきつい動物と無せきつい動物にこだわらないこと。理由とともに表現させる。
例② 学習の後半の場面で、何これ?!と思わせる生き物を提示し、調べ考え、どの仲間に入るか理由とともに表現させる。

中学生は、子供であり大人である不思議な存在。わざとらしくなく、必要観に迫れるようなスマートな授業展開をデザインしよう！ 楽しいですよ。